

2018年6月22日(金)

英会話道場イングリッシュヒルズ  
文書教材

## 「厳格性」と「エレガント英語」の相互関係

生井利幸

当・英会話道場イングリッシュヒルズでは、実に100パーセントすべての受講生が、「エレガント英語の具現」を目指して、毎日、全身全霊で勉強をしています。

当教室の受講生は、「学問の聖域である銀座書齋にて、世界最高峰のレッスンを、実に、一対一の完全個人指導で受講できる」という最高の学習条件を備えています。この学習条件に加え、実に100パーセントすべての受講生が「ボイスレコーダーの使用」を許可され、レッスンにおいて講師が発するすべての英語を録音することができます。

言うまでもなく、毎日、すべての受講生が、録音したレッスン内容について全身全霊で復習する日々を送っています。

当教室で勉強している皆さんの面前では、「本物の英日バイリンガル」として変貌を遂げるそのプロセスにおいて、「毎日、厳格に厳格を重ねて勉強を続けていくこと」が何よりも重要であるということは、今更、言及するには及ばないでしょう。

「厳格に厳格を重ねる」と言葉で述べるのは簡単ですが、実際のところ、「厳格」(rigidity)の実体そのものは、「言葉上の、『実体のない空の概念(vacant concept)』」でしかありません。

では、皆さんが、「生井利幸のレッスンを介し、全身全霊で、厳格に厳格を重ねる日々を送る」と決意したその厳格性について、＜1＞「言葉上の、実体のない空っぽの概念」から、一体どのように、＜2＞「実体・中身のある本当の意味での厳格」に推移・発展させていくことができるのでしょうか。

そのためのヒント・考え方は、以下の通りです。

＜1＞

「一事が万事において、口だけでなく、『実際の行動』として、心を込めて丁寧に一つひとつを行っていく。」

＜2＞

「真の意味での『厳格』とは、“言葉上の概念的なもの”ではなく、『毎日の汗と涙』で構築していくものである。」

＜3＞

「人は概して、大きいことに対してすこぶる敬意を払う。これは世の中の常である。では一方において、小さなことに対して、“真心”を込めて、誠心誠意の気持ちで最大級の敬意を払うことができるか。」

＜4＞

「人間の価値は、常に、知識の量ではなく、『心の豊かさ』で決まる。」

＜5＞

「一事が万事において、自分の責任において物事を扱っているか。困難な状況に遭遇したとき、本来は自分の問題なのに、その責任の所在を、他人の所為（せい）にしてしまっていないか。」

上記の5つの重要ポイントについて、「平日・週末に関係なく、毎日 24 時間、自身の身を挺して実行していくことができるか否か」で、エレガント英語の習得の行く末が決まります。

**助言：**

上記の5つの重要ポイントについて、どうしても十分な認識・理解に及ばないという受講生は、できるだけ早く、その旨を講師に相談してください。講師は、可能な限り、受講生本人にとって最も妥当な指導・助言を行います。